DENON

RCD-M39
CDレシーバー

取扱説明書

●お買い上げいただき、ありがとうございます。
●ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
●お読みになったあとは、いつでも見られるところに「保証書」·「製品のご相談と修理·サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
●この製品は持ち込み修理対象製品です。
出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくことになりますので、あらかじめご了承願います。詳しくは、「保証と修理について」(☞39 ページ)をご覧ください。

ご使用になる前に

お買い上げいただきありがとうございます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例
図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜く

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜く

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で
表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に
電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

火気禁止

火や炎を近づけない
本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。
火災の原因となります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない
機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水滴や水しぶきのかかるところに置かない
雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災、感電の原因となります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない
内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら
機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

使用中、使用直後に高温となる部分には触らない
使用中、使用直後は上面や高温注意マークの面には触れないでください。
機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。

高温注意

禁止

乾電池は充電しない
電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない
火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない
こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

禁止

必ず AC 100V のコンセントに電源プラグを差し込んで使用する
本機は国内仕様です。AC 100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。
火災・感電の原因となります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

付属の電源コードを使用する

注意

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

必ず実施

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近付けない

禁止

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは

禁止

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

すぐに電源コンセントからプラグを抜くことができるように設置する

電源プラグをコンセントから抜く

電源のスイッチを切っても電源コンセントからは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜くことができるようにしてください。

機器の接続は説明書をよく読んでからおこなう

必ず実施

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従っておこなってください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする

必ず実施

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

長時間音が歪んだ状態で使用しない

禁止

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

電池を使用するときは

必ず実施

- 極性表示に注意し、表示のとおりに正しく入れる。
- 指定以外の電池は使用しない。

禁止

- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 電池は火のそばや直射日光のあたるところ、暖房器具などの高温の場所に置かないでください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときはお住まいの地域の条例に従って処理してください。

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

不安定な場所に置かない

禁止

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

レーザー光源をのぞき込まない

禁止

レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

次のような場所には置かない

禁止

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

壁や他の機器から少し離して設置する

必ず実施

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

通風孔をふさがない

禁止

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

禁止

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

禁止

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

ディスク挿入口に手を入れない

手の挟み込み注意

指のけがに注意

特に幼いお子様にご注意ください。けがの原因となることがあります。
万一手を挟まれた場合は、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

重いものをのせない

禁止

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

移動させるときは

電源プラグをコンセントから抜く

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

電源プラグをコンセントから抜く

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

5 年に一度は内部の掃除を

注意

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

ご使用になる前に …… 2
安全上のご注意 …… 2
目次 …… 4
使用上のご注意 …… 5
付属品を確認する …… 5
本書について …… 5
本機の特長 …… 6

準備編 …… 7

接続のしかた …… 8
スピーカーの接続 …… 8
USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する …… 9
テレビを接続する …… 10
FM/AM アンテナを接続する …… 11
電源コードを接続する …… 12

操作編 …… 13

基本操作 …… 14
準備 …… 14
現在時刻の合わせかた(24 時間表示) …… 15
再生中にできる操作 …… 16
CD を再生する …… 17
チューナーを聴く …… 19
音声入力端子に接続したオーディオ機器の再生 …… 21
応用操作 …… 22
準備 …… 22
MP3 と WMA ファイルの再生 …… 23
iPod の再生 …… 25
USB メモリーの再生 …… 26
アラーム設定 …… 27
その他の機能 …… 29

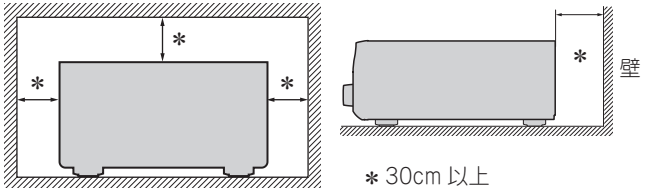
情報編 …… 30

各部の名前 …… 31
フロントパネル …… 31
ディスプレイ …… 32
リアパネル …… 32
リモコン …… 33
その他の情報 …… 36
ディスクについて …… 36
用語の解説 …… 37
故障かな？と思ったら …… 37
保証と修理について …… 39
主な仕様 …… 39
索引 …… 40

使用上のご注意

設置について

本機内部の放熱を良くするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。



＊30cm 以上

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

換気についてのご注意

本機をたばこなどの煙が充満している場所に長時間置くと、光学式ピックアップの表面が汚れ、正しい信号の読み取りができなくなることがあります。

結露(つゆつき)について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部(動作部)に水滴が付くことがあります(結露)。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1～2 時間放置してから使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

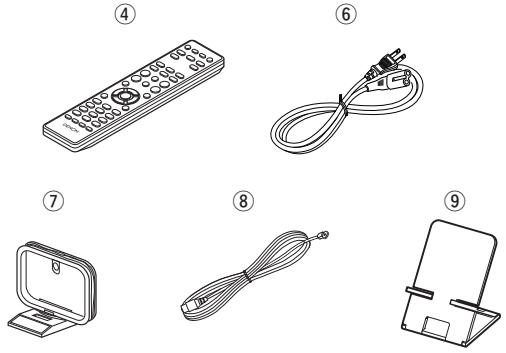
移動させるときのご注意

最初にディスクを取り出して電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
次に、機器間の接続ケーブルを外してからおこなってください。

付属品を確認する

ご使用の前にご確認ください。

① 取扱説明書(本書).....1
② 保証書(梱包箱に貼り付けています).....1
③ 製品のご相談と修理･サービス窓口のご案内.....1
④ リモコン(RC-1162).....1
⑤ 単4形乾電池.....2
⑥ 電源コード.....1
⑦ AMループアンテナ.....1
⑧ FM室内アンテナ.....1
⑨ iPodスタンド.....1



本書について

❑操作説明のボタンについて

本書の操作説明は、リモコンの操作ボタンをメインに説明しています。

❑マークについて

☞ このマークは、関連情報を記載している参照先のページをあらわします。

このマークは、補足説明や操作上のアドバイスをあらわします。

ご注意 このマークは、操作時に留意していただきたい注意点や、機能の制約などをあらわします。

❑イラストについて

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

ステレオ音のエチケット

- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

本機の特長

ヨーロピアン・サウンド・チューン
クラシック音楽の本場ヨーロッパのサウンドデザイナーとDENONのエンジニアとのコラボレーションによるヨーロピアン・サウンド。試聴・チューニングをくり返し妥協のない高音質を実現しました。

シンプル&ストレート・サーキット・デザイン
DENONのハイコンポ“Mシリーズ”は、高級Hi-Fiコンポと同じ一貫した思想のもとに高音質を実現させています。余分な回路、複雑な信号経路によって音声信号に悪影響を及ぼすことなく、もっとも忠実に音声信号を再生できるようにシンプルでストレートな信号の流れを実現させる構造・回路設計を施しています。このサーキットデザインが澄み切った無垢な洗練された音を生み出しています。

ハイパワーアンプ
横幅210mm、奥行き308mmというコンパクトな筐体に30W+30Wの出力を発揮するパワーアンプを搭載。パワーアンプの基板のベースには、熱伝導率、電磁シールド効果の優れた材質を用いることで、放熱性とノイズ低減効果を高め、さらに回路の低インピーダンス化にも成功しました。これにより低域の力強さ、キレのある高域、パワフルなサウンドを実現しています。

トリプル・ノイズ・リダクション・デザイン(T.N.R.D)
(1) サウンドのクオリティを高めるミニマムシグナルパス回路構成
(2) デジタル部とアナログ部の分離設計
(3) ピュアな音声信号を再生するための適確なグランド回路
パワーアンプ回路だけを強力にしても、さまざまな回路や基板・配線のレイアウトが影響し合うオーディオ機器では、満足したスペックやサウンドを得ることはできません。影響し合う3つのノイズ要因を徹底的に排除していくことで、濁りのない原音に近い澄んだ美しさを引出しています。

iPod&USBメモリーのデジタル伝送方式による再生が可能なUSB端子装備
iPodまたはUSBメモリーに保存した音楽ファイルをダイレクトに再生できます。本機は、iPodのデジタル音楽ファイルをデジタル信号のままで入力します。本機の優れた音声回路や高精度のD/Aコンバーターを経由することで、原音に迫る再生を実現します。ファイルの選択はリモコン操作でおこない、ディスプレイにはファイル名などを表示します。

＊ 第5世代以降のiPodに対応。USBメモリーはマスストレージクラス対応。

DENON CXスピーカーシリーズの思想・技術を系譜
スピーカーシステムSC-M39は、DENON CXスピーカーシリーズの思想と技術を受け継ぎ、コンパクトスピーカーとは思えないスケール感と卓越した音楽表現を実現しました。D.D.L.コーンやソフトドームツィーターを採用し、新開発のクロスネットワーク回路は、本機との組み合わせによるチューニングを実施。システムオーディオとしての最高のパフォーマンスを発揮します。

リモートコントローラー
よく使うボタンが大きく、使いたい機能が見つけやすいリモートコントローラーを付属しています。

光デジタルオーディオ入力端子装備
本機には光デジタルオーディオ入力端子が装備されていますので、テレビの音声が迫力あるサウンドで楽しめます。

オートスタンバイモード
本機を使わないでいると、自動的にスタンバイモードに切り替わるオートスタンバイモードが装備されています。電源の消し忘れを防止します。

Preparations

準備編

ここでは、本機の接続方法について説明しています。

- **スピーカーの接続** ☞8 ページ
- **USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する** ☞9 ページ
- **テレビを接続する** ☞10 ページ
- **FM/AM アンテナを接続する** ☞11 ページ
- **電源コードを接続する** ☞12 ページ

接続のしかた

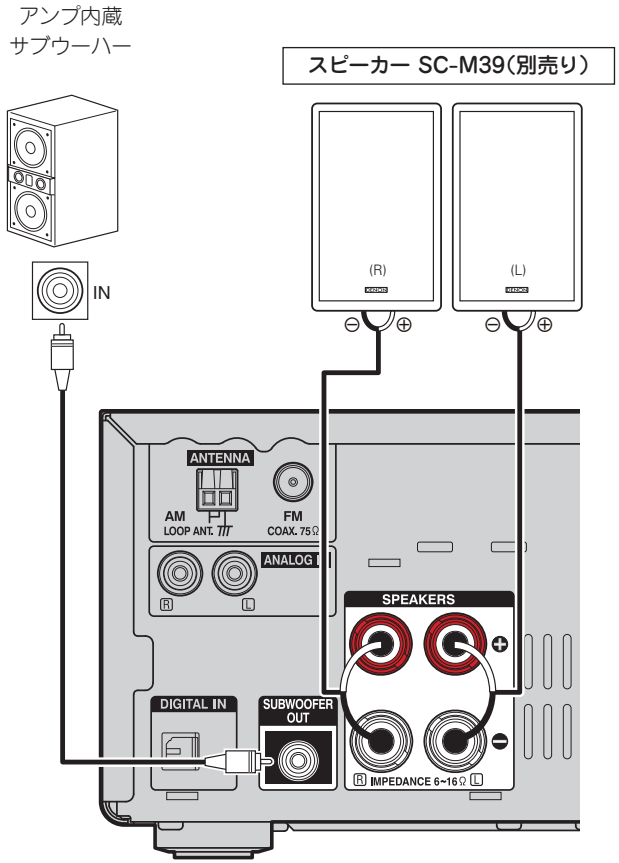
ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくＬとL、ＲとＲを接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルを一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因になります。

接続に使用するケーブル

音声ケーブル(別売り)	
サブウーハーケーブル	
スピーカーケーブル	
光伝送ケーブル	
オーディオケーブル	

スピーカーの接続

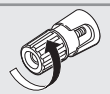


スピーカーケーブルを接続する

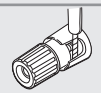
本機とご使用になるスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、＋(赤)、－(黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

1 スピーカーケーブル先端の被覆を10mm程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理(半田付け)をおこなう。

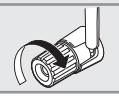
2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。



3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。



4 スピーカー端子を右に回して締める。



ご注意

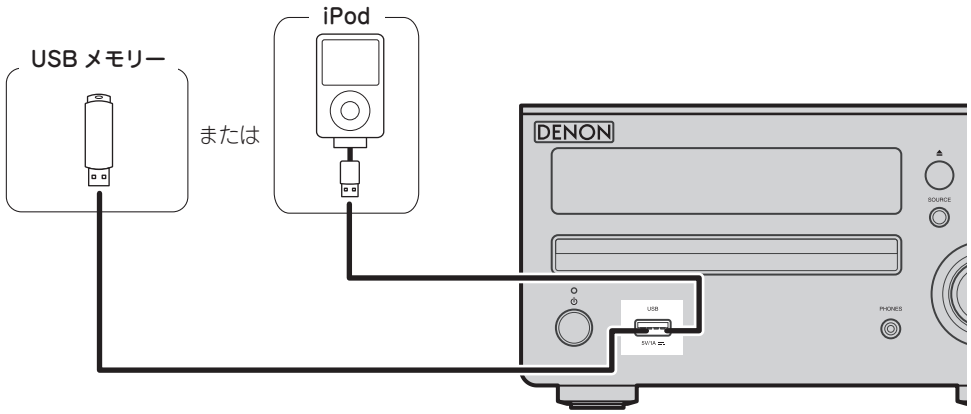
- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。また、サブウーハーの電源を切ってください。
- スピーカーは、インピーダンスが6～16 Ωのものをお使いください。指定されたインピーダンス以外のスピーカーを使用した場合に、保護回路が動作することがあります。
- スピーカーケーブルは、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触すると、保護回路が動作します(☞37 ページ「保護回路」)。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する

- iPod や USB メモリー内の音楽を楽しむことができます。
- 操作のしかたは、「iPod の再生」(☞25 ページ) または「USB メモリーの再生」(☞26 ページ) をご覧ください。

接続に使用するケーブル

本機と iPod を接続するときは、iPod に付属の USB ケーブルをお使いください。



すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものをお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。

ご注意

- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- USB メモリーを接続するときに、延長ケーブルを使用しないでください。他の機器に電波障害を引き起こす場合があります。
- 本機に iPhone を接続するときは、iPhone を本機から 20cm 以上離してください。iPhone を本機に近づけると、iPhone が電話を受信したときに、本機の音声出力にノイズが入ることがあります。
- iPod の接続に 2m 以上の USB ケーブル(別売り)を使用すると、音声が正しく再生できない場合があります。その場合は、純正の USB ケーブルまたは 1m 以下のケーブルをお使いください。

対応している iPod/iPhone

- iPod classic

iPod classic 80GB / iPod classic 160GB (2007) / iPod classic 160GB (2009)

- iPod nano

iPod nano 3rd generation (video) 4GB 8GB / iPod nano 4th generation (video) 8GB 16GB / iPod nano 5th generation (video camera) 8GB 16GB / iPod nano 6th generation 8GB 16GB

- iPod touch

iPod touch 1st generation 8GB 16GB 32GB / iPod touch 2nd generation 8GB 16GB 32GB / iPod touch 3rd generation 32GB 64GB / iPod touch 4th generation 8GB 32GB 64GB

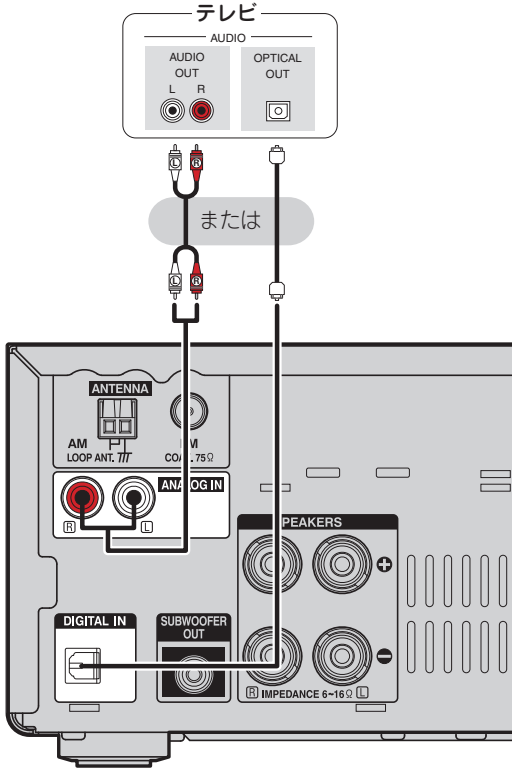
- iPhone

iPhone 4GB 8GB 16GB / iPhone 3G 8GB 16GB / iPhone 3GS 8GB 16GB 32GB / iPhone 4 8GB 16GB 32GB / iPhone 4S 16GB 32GB 64GB

(2012 年 6 月現在)

テレビを接続する

•接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。



ご注意

- 本機のデジタル音声入力端子（DIGITAL IN）で入力できるデジタル音声信号は 2 チャンネルリニア PCM 信号のみです。
- 2 チャンネルリニア PCM 以外のデジタル音声信号を本機に入力する場合は、TV のデジタル音声出力設定を 2 チャンネル PCM にしてください。
  詳しくは、TV の取扱説明書をご覧ください。

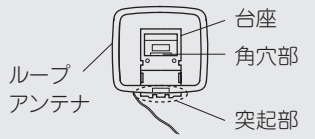
FM/AM アンテナを接続する

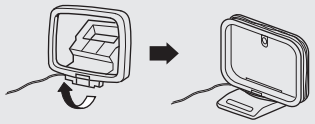
- 本機に付属の FM アンテナや AM ループアンテナを接続すると、FM および AM 放送を楽しむことができます。
- アンテナを接続したあとに放送を受信し（☞19 ページ「チューナーを聴く」）、雑音の少ない位置にテープなどで固定してください。

❑AM ループアンテナの組み立てかた

1 **台座部をループアンテナの後ろから、ループアンテナの下を通して、手前に曲げる。**

2 **突起部を台座の角穴部に差し込む。**

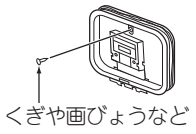




❑AM ループアンテナの使いかた

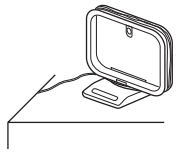
壁にかけて使う

組み立てずにそのままお使いください。



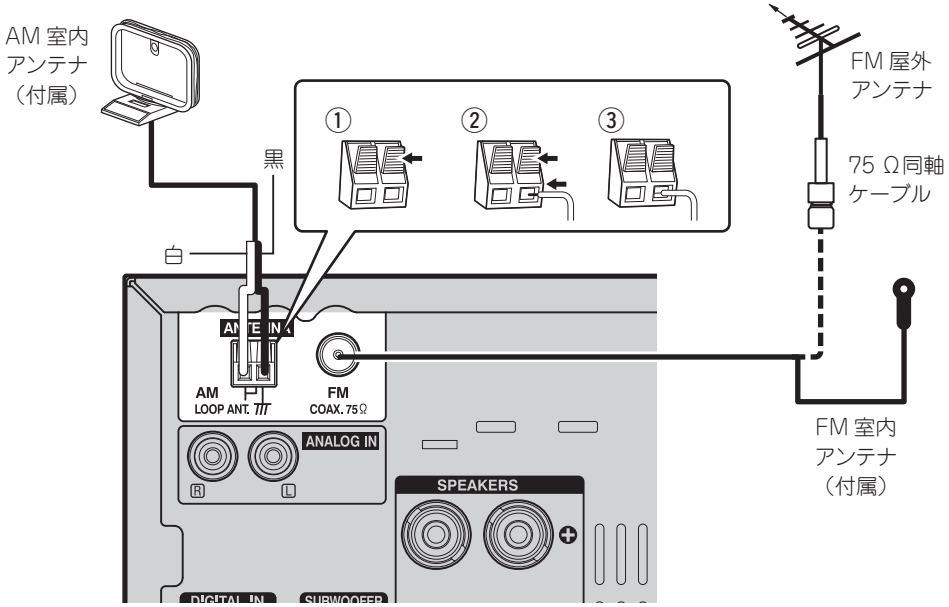
置いて使う

上図のように組み立ててお使いください。

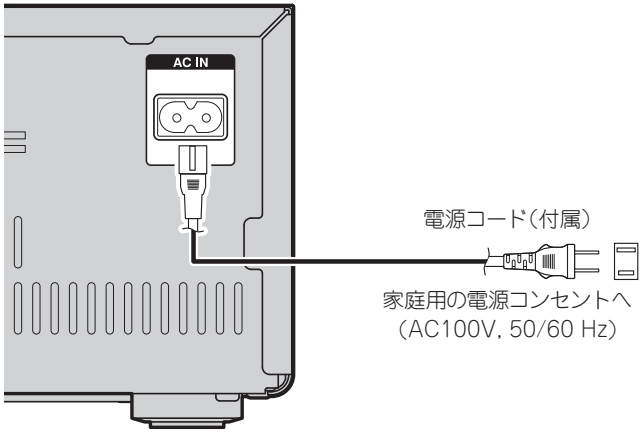


ご注意

- 2 つの FM アンテナを同時に接続しないでください。
- FM や AM の受信感度は、アンテナの設置場所や設置方向によって変わります。最もよく受信できるところに設置してください。
- AM ループアンテナ線がリアパネルやねじに接触していないかご確認ください。
- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- AM 屋外アンテナを接続時も AM ループアンテナを接続してください。
- ケーブルテレビにご加入の場合は、ケーブルテレビのアンテナで FM 放送を受信できる場合があります。詳しくは、ご加入のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。



電源コードを接続する



ご注意

- 付属の電源コード以外は、使用しないでください。
- 本機の AC インレットへの電源コードの抜き差しは、必ず電源プラグをコンセントから抜いた状態でおこなってください。

Operations

操作編

ここでは、本機をより使いこなすことができる機能や操作について説明しています。

- 準備　☞14 ページ
- 現在時刻の合わせかた（24 時間表示）　☞15 ページ
- 再生中にできる操作　☞16 ページ
- CD を再生する　☞17 ページ
- チューナーを聴く　☞19 ページ
- 音声入力端子に接続したオーディオ機器の再生　☞21 ページ
- 準備　☞22 ページ
- MP3 と WMA ファイルの再生　☞23 ページ
- iPod の再生　☞25 ページ
- USB メモリーの再生　☞26 ページ
- アラーム設定　☞27 ページ
- その他の機能　☞29 ページ

❑ 電源を入れる (☞14 ページ)
❑ ディスクを再生する前に (☞14 ページ)
❑ 電源を切る (☞14 ページ)

❑ 現在時刻の合わせかた(24 時間表示) (☞15 ページ)

❑ 入力ソースを選ぶ入力ソースを選ぶ (☞16 ページ)
❑ 音量を調節する (☞16 ページ)
❑ 音質を調節する (☞16 ページ)
❑ 一時的に音を消す(ミューティング) (☞16 ページ)
❑ ディスプレイの明るさを切り替える (☞16 ページ)

❑ CD を再生する (☞17 ページ)
❑ チューナーを聴く (☞19 ページ)

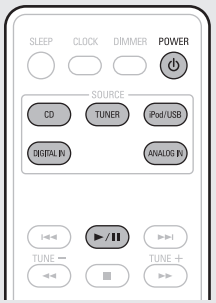
❑ 応用操作 (☞22 ページ)

準備

電源を入れる

POWER ⏻ を押す。

- 電源が入ります。
  もう一度押すと、電源がスタンバイ状態になります。
- 電源表示について
  電源スタンバイ .....消灯
  電源オン .....緑色
  アラーム設定時.....オレンジ色
  iPod チャージスタンバイ ...赤色



電源がスタンバイ状態の場合、次のボタンを押しても電源が入ります。

- 本体の ⏻, ⏏ または ►/II*
- リモコンの **CD**, **TUNER**, **iPod/USB**, **DIGITAL IN**, **ANALOG IN** または ►/II*

＊ すでにディスクがセットされている場合は、再生をはじめます。

ご注意

- 電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 必ず再生を止めてから電源を切ってください。

❑電源を完全に切るには

電源コードを壁のコンセントから抜く。

- 電源コードをコンセントから抜くと、時刻設定が解除されますのでご注意ください。
- 長期に渡り電源コードをコンセントから抜いた状態でいると、各ソースで設定した設定内容が消えてしまうことがあります。

ディスクを再生する前に

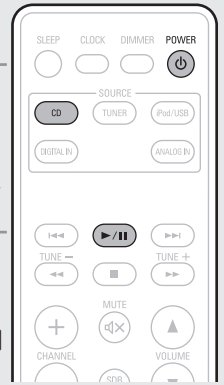
1 POWER ⏻ を押す。

2 CD を押して、ソースを“DISC”に切り替える。

- ディスクトレイにディスクが入っていないときは、“NO DISC”を表示します。

3 ディスクを入れる (☞36 ページ)。

- 本体の ⏏ を押してディスクトレイを開閉します。
- ►/II を押しても、ディスクトレイを閉じることができます。



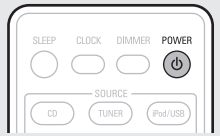
ご注意

ディスクトレイに異物を入れないでください。故障の原因になります。

電源を切る

POWER ⏻ を押す。

電源表示が消灯し、電源が切れます。



ご注意

- 再生を停止してから、電源を切ってください。
- 電源を切る前に、ディスクトレイが完全に閉まっていることを確認してください。
- 電源を切っているときに、ディスクトレイを手で押し込まないでください。故障の原因になります。

現在時刻の合わせかた（24 時間表示）

【例】現在時刻を午前 10 時 15 分に設定する

1 **POWER ⏻ を押して、電源を入れる。**

2 **SETUP を押す。**
設定メニューを表示します。

3 **△▽ を押して“CLOCK SETUP”を選び、ENTER または ▷ を押す。**

4 **△▽ を押して“時”を設定する。**

5 **ENTER または ▷ を押す。**
“分”表示が点滅します。

6 **△▽ を押して“分”を設定する。**

7 **ENTER または ▷ を押す。**
現在時刻を確定し、通常の表示に戻ります。

❑電源がオンのときに現在時刻を確認するには

CLOCK を押す。
もう一度 **CLOCK** を押すか、他の操作をおこなうと、通常の表示に戻ります。

❑電源がスタンバイ状態のときに現在時刻を確認するには

CLOCK を押す。
約 10 秒間、現在時刻を表示します。

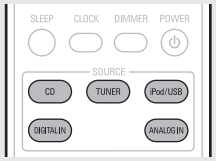
ご注意

電源がスタンバイ状態のときは、時刻設定ができません。電源を入れてからおこなってください。

再生中にできる操作

入力ソースを選ぶ

再生する入力ソース選択ボタン CD, TUNER, iPod/USB, DIGITAL IN または ANALOG IN を押して、入力ソースを選ぶ。
入力ソースをダイレクトに選べます。



次の操作方法でも入力ソースを選ぶことができます。

❑本体のボタンで入力ソースを選ぶ

SOURCE を押す。

- **SOURCE** を押すと、入力ソースが次の順序で切り替わります。

DISC → iPod/USB → TUNER → DIGITAL IN ← ANALOG IN ←

音量を調節する

VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。
音量レベルを表示します。

【 調節できる範囲 】

VOLUME 00 ～ 49, VOLUME MAX

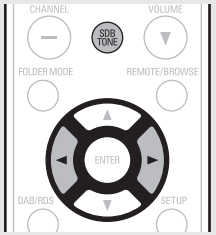
本体の **VOLUME** を回しても、主音量を調節できます。

音質を調節する

1 SDB TONE を押して、調節する項目を選ぶ。

SDB → BASS → TREBLE → S. DIRECT ← BALANCE ←

2 ◁ ▷ を押して、SDB、BASS、TREBLE または BALANCE を調節する。



- 続けて他の音質を調節するときは、**SDB TONE** を押してください。
- 約 5 秒間操作をしないと調節した状態を保持して、通常の表示に戻ります。

SDB スーパーダイナミックバス機能のオン／オフを切り替えます。低音を強調します。
【 調節できるモード 】 **ON** **OFF**

BASS 低音を調節します。
【 調節できる範囲 】 **–10dB** ～ **+10dB**

TREBLE 高音を調節します。
【 調節できる範囲 】 **–10dB** ～ **+10dB**

BALANCE 左右の音量バランスを調節します。
【 調節できる範囲 】 **L06** ～ **CENTER** ～ **R06**

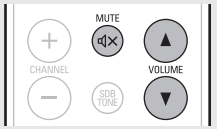
S.DIRECT ソースダイレクトモードで再生します。
ソースダイレクトモードでは、音声信号が音質調節回路(SDB/BASS/TREBLE/BALANCE) を通らないため、より原音に忠実な再生ができます。

【お買い上げ時の設定】

- SDB.....OFF
- BASS.....0dB
- TREBLE 0dB
- BALANCE.....CENTER
- S.DIRECT.....OFF

一時的に音を消す(ミューティング)

MUTE 🔇 を押す。
ディスプレイに“MUTE ON”を表示します。



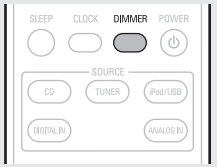
解除するときは、もう一度 **MUTE 🔇** を押してください。
(**VOLUME ▲▼** を押しても解除できます。)

ディスプレイの明るさを切り替える

DIMMER を押す。

明るい → 中間 → 消灯 ← 暗い ←

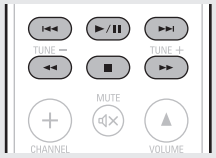
- ボタンを押すたびに、ディスプレイの明るさが切り替わります。



CD を再生する

あらかじめ、(☞14 ページ) の操作をおこなってください。

►/II を押す。
ディスプレイの“►” 表示が点灯し、再生をはじめます。



❑MP3 と WMA ファイルの再生 (☞23 ページ)

❑再生を停止するには

■ を押す。
• 本体の **BAND/■** を押しても操作できます。

❑再生を一時停止するには

►/II を押す。
“**II**” 表示が点灯します。
• 再生を再開するときは、**►/II** を押してください。

❑早送り / 早戻し(サーチ)をするには

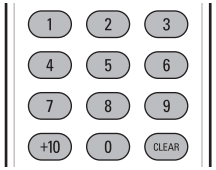
再生中に **◄◄**, **►►** を長押しする。

❑頭出し(スキップ)をするには

再生中に **I◄◄, ►►I** を押す。
• 押した回数だけ曲を飛び越します。
• 戻し方向に 1 回押すと、再生中の曲の先頭に戻ります。
• 本体の **I◄◄/–**, **+/►►I** を押しても操作できます。

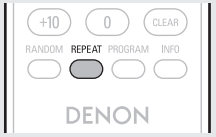
❑好きな曲を聞くには(リモコンのみ)

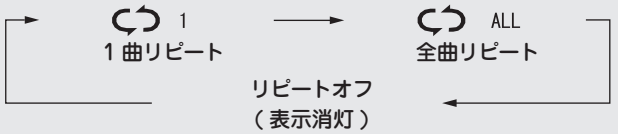
0 ～ **9**, **+10** で番号を選ぶ。
【例】4 曲目　　: **4**
【例】12 曲目　　: **+10**, **2**
【例】20 曲目　　: **+10**, **+10**, **0**



くり返し再生する(リピート再生)

REPEAT を押す。
それぞれのくり返し再生を始めます。





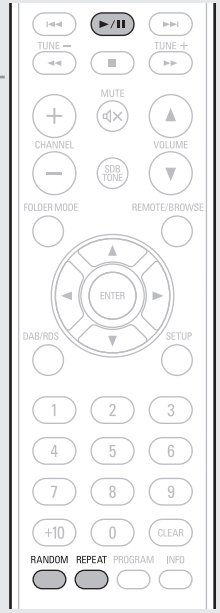
1 (1 曲リピート)	1 曲のみをくり返して再生します。
ALL (全曲リピート)	全曲をくり返して再生します。
リピートオフ (表示消灯)	通常の再生に戻ります。

ディスクトレイを開けたり、電源を切るとリピート再生を解除します。

順不同に再生する(ランダム再生)

1 **停止中に RANDOM を押す。**
“RANDOM” を表示します。

2 **►/II を押す。**
順不同に再生をはじめます。



ランダム再生中に **REPEAT** を押すと、一通りのランダム再生後、違った曲順でランダム再生をおこないます。

ご注意
再生中にランダム再生の設定および解除はできません。

❑ランダム再生を解除するには

停止中に **RANDOM** を押す。
“RANDOM” が消灯します。

ディスクトレイを開けたり、電源を切るとランダム再生を解除します。

☞次のページへ

好きな順に再生する (プログラム再生)

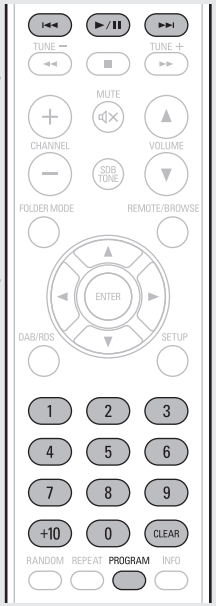
最大 25 曲までプログラムできます。

1 **停止中に PROGRAM を押す。**
"PGM"を表示します。

2 **0 ～ 9, +10 を押して、曲番を選ぶ。**

【例】 3 曲目、12 曲目、7 曲目の順にプログラムしたい場合 :
PROGRAM, **3**, **+10**, **2**, **7** と押す。

3 **►/II を押す。**
プログラムした順に再生をはじめます。



❑プログラムした曲順を確認するには

停止中に ►►I を押す。
押すたびに、プログラムした順に曲番を表示します。

❑プログラムした最後の曲を取り消すには

停止中に **CLEAR** を押す。
押すたびに、プログラムの最後の曲を取り消します。

❑プログラムした 1 曲のみを取り消すには

停止中に ►►I を押して、取り消したい曲を選び、**CLEAR** を押す。

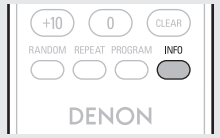
❑プログラムした曲をすべて取り消すには

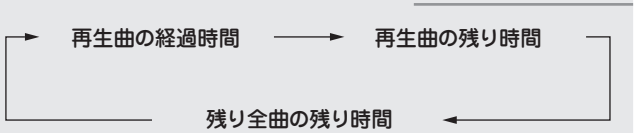
停止中に **PROGRAM** を押す。

- プログラム再生中に **REPEAT** を押すと、プログラムした曲順に再生を繰り返します。
- プログラム再生中に **RANDOM** を押すと、プログラムした曲をランダムに再生します。
- ディスクトレイを開けたり、電源を切るとプログラムを解除します。

ディスプレイ表示を切り替える

INFO を押す。



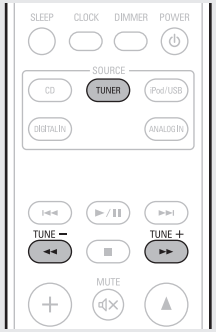


- ボタンを押すたびに、表示が切り替わります。

放送局を受信する

あらかじめアンテナを接続してください（☞11 ページ）。

1 TUNER を押して、受信バンドを選ぶ。



FM AUTO → FM MONO → AM →（FM AUTO へ戻る）

【ディスプレイ表示について】
FM AUTO のとき ..... “AUTO”を表示します。
FM MONO のとき ..... “MONO”を表示します。
AM のとき ..... 受信モードを表示しません。

- 本体の **BAND/■** を押しても受信バンドを選ぶことができます。
- 受信バンドを“FM AUTO”に設定し、ステレオ放送を受信すると“ST”表示が点灯します。

2 TUNE –, + を押して、受信周波数を選ぶ。
受信すると、“TUNED”表示が点灯します。

電波が弱く、安定したステレオ受信ができないときは、“FM MONO”を選び、モノラル受信にしてください。

❑オートチューニングするには

TUNE –, + を長押しすると、自動的に放送局を受信します。
- ただし、電波が弱い放送局は受信できません。

❑オートチューニングを停止するには

TUNE –, + を押す。

AM 放送受信中に近くでテレビなどを使用すると、“ピー”という雑音が入る場合があります。このような場合は、本機をテレビなどからできるだけ離して設置してください。

FM 放送局を自動的にプリセットする（オートプリセット）

最大 40 局プリセットできます。

ご注意
AM 放送局はオートプリセットできません。

❑リモコンでのオートプリセットのしかた

この操作は FM 放送局の受信中におこなってください。

1 SETUP を押す。

2 △▽ で“TUNER SETUP”を選び、ENTER または ▷ を押す。

3 △▽ で“FM AUTO PRESET”を選び、ENTER または ▷ を押す。

4 “PRESS ENTER ”の点滅中に ENTER を押す。
放送局を自動的にプリセットします。

❑オートプリセットを途中で止めるには

TUNER または ■ を押す。

アンテナの電波が弱い放送局は、オートプリセットができません。このような場合は、マニュアルチューニングで受信してください。

ご注意
オートプリセットをおこなうと、それまでに登録していたプリセット内容を消去します。新しくプリセットする FM 放送局が、その消去されたプリセット番号に新たに登録されます。

❑プリセットしたチャンネルに放送局名を付ける

最大 8 文字まで入力できます。

1 名前を付けるプリセットチャンネルを受信する。

2 ENTER を 2 回押す。
ディスプレイが放送局名入力表示になります。

3 放送局名を入力する。
最大 8 文字まで入力できます。
- △, ▽.....文字を選びます。
- ▷.....カーソルを右に移動します。
- **CLEAR**.....選択中の文字を消去します。
- 入力できる文字

A ～ Z, 0 ～ 9, ^ ’ ( ) ∗ + , - . / = (空白)

4 ENTER を押す。
文字の入力を確定します。

- 続けてプリセットをおこなうときは、手順 1 ～ 4 をくり返してください。

☞次のページへ

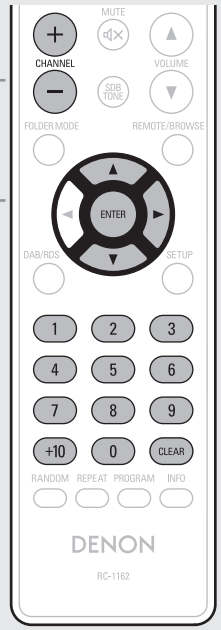
FM/AM 放送局をマニュアルでプリセットする

FM/AM 合わせて最大 40 局までプリセットできます。

1 **プリセットする放送局を受信する。**

2 **ENTER を押す。**
未登録プリセットの最小番号表示 “P- -” が点滅します。

3 **0 ～ 9, +10 または CHANNEL –, + でプリセットする場号を選び、ENTER を押す。**
受信周波数と受信モードをプリセットし、ディスプレイが放送局名入力表示になります。



ご注意

登録済みのプリセット番号を選ぶと、“*” を表示します。
このプリセット番号にプリセット内容を上書きするときは、**ENTER** を押してください。

4 **放送局名を入力する。**
最大 8 文字まで入力できます。
- △, ▽.....文字を選びます。
- ▷.....カーソルを右に移動します。
- **CLEAR**.....選択中の文字を消去します。
- 入力できる文字

A ～ Z, 0 ～ 9, ^ ’ ( ) * + , - . / = (空白)

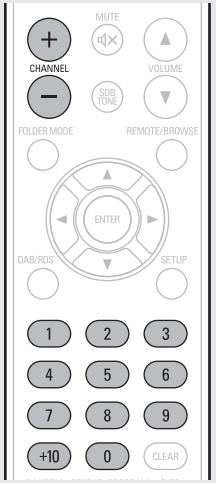
- 放送局名を入れないときは、何も入力せず **ENTER** を押してください。
- 間違えて入力したときは、再度おこなってください。上書きします。

5 **ENTER を押す。**
文字の入力を確定します。

- 続けてプリセットをおこなうときは、手順 1 ～ 5 をくり返してください。

プリセットした放送局を聴く

0 ～ 9, +10 または CHANNEL –, + でプリセット番号を選ぶ。



本体でプリセットチャンネルの選択やチューニングをおこなうための設定

本体の **I◀◀/–, +/▶▶I** ボタンはプリセットチャンネルの切り替えとチューニングの兼用ボタンです。
操作の前に次の手順で本機を “プリセットモード” または “チューニングモード” に設定してください。

1 **SETUP を押す。**

2 **△▽ で “TUNER SETUP” を選び、ENTER または ▷ を押す。**

3 **△▽ で “MODE SELECT” を選び、ENTER または ▷ を押す。**

4 **△▽ で “PRESET MODE” または “TUNING MODE” を選び、ENTER を押す。**

プリセットモード
本体の **I◀◀/–, +/▶▶I** を押すと、プリセットチャンネルを切り替えます。
- リモコンの **CHANNEL –, +** と同じはたらきです。

チューニングモード
本体の **I◀◀/–, +/▶▶I** を押すと、受信周波数を切り替えます。
- リモコンの **TUNE–, +** と同じはたらきです。

音声入力端子に接続したオーディオ機器の再生

1 **再生の準備をする。**
接続を確認して、本機の電源を入れてください。

2 **DIGITAL IN または ANALOG IN を押す。**

- デジタル音声入力端子にオーディオ機器が接続されていない場合、“SIGNAL UNLOCK”を表示します。

3 **本機に接続した機器を再生する。**

❑ 基本操作 (☞14 ページ)

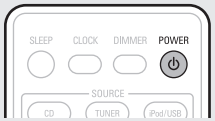
❑ USB または iPod を再生する前に (☞22 ページ)
❑ MP3 や WMA ファイルの再生順番について (☞22 ページ)

❑ MP3 と WMA ファイルの再生 (☞23 ページ)
❑ iPod の再生 (☞25 ページ)
❑ USB メモリーの再生 (☞26 ページ)
❑ アラーム設定 (☞27 ページ)
❑ その他の機能 (☞29 ページ)

準備

USB または iPod を再生する前に

1 **POWER ⏻ を押す。**



2 **USB メモリーまたは iPod ケーブルを接続する。**
USB メモリーまたは iPod を本機の USB ポートに接続すると、ソースが自動的に“iPod/USB” に切り替わり、ファイルの再生を始めます。

❑電源を切るとき

もう一度 **POWER ⏻** を押す。

ご注意

- 電源を切る前に、必ず再生を止めてください。
- 万一、iPod のデータが消失または損傷しても、弊社は一切責任を負いません。
- iPod のソフトウェアのバージョンによっては、本機で操作できない場合があります。

MP3 や WMA ファイルの再生順番について

MP3 や WMA ファイルを記録しているフォルダが複数ある場合、本機がメディアを読み取るときに自動的に各フォルダの再生順番を設定します。各フォルダの中のファイルを、ファイルがメディアに記録された日時が古いファイルから順に再生します。

❑フォルダの再生順序

CD-R/CD-RW

CD-R や CD-RW ディスクに記録しているファイルは、第一階層のすべてのフォルダにあるファイルを再生したあとに第二階層のすべてのフォルダ、第三階層のすべてのフォルダ・・・、の順番に再生します。

USB メモリー

USB メモリーに記録しているファイルは、第一階層の最初のフォルダにあるファイルを再生したあとに、そのフォルダ内にある第二階層のフォルダ、第三階層のフォルダ･･･、を再生し、次に別の第一階層のフォルダ・・・、の順番に再生します。

- パソコン上で表示される順番と実際に再生する順番が異なる場合があります。
- CD-R/CD-RW のライティングソフトによっては、再生する順番が変わる場合があります。

ご注意

USB メモリーのフォルダやファイルの削除や追加をおこなうと、記録順とは違う順に再生をする場合があります。これはデータ記録上の仕様によるもので、故障ではありません。

MP3 と WMA ファイルの再生

インターネットのホームページ上には、MP3 形式や WMA（Windows Media® Audio）形式の音楽ファイルをダウンロードできるさまざまな音楽配信サイトがあります。そのサイトからダウンロードした音楽（ファイル）を CD-R または CD-RW に書き込むことにより、本機で再生することができます。

“Windows Media” および“Windows” は、米国やその他の国で、米国 Microsoft Corporation の登録商標または商標になっています。

MP3 と WMA のフォーマットについて

本機では、次のフォーマットで作成した CD-R または CD-RW ディスクを再生できます。

❑ライティングソフトのフォーマット

ISO9660 レベル 1
他のフォーマットで記録している場合は、正しく再生できないことがあります。

❑再生可能な最大ファイル数とフォルダ数

最大ファイル数：255
最大フォルダ数：255

❑ファイル形式

MPEG-1 Audio Layer-3
WMA（Windows Media Audio）

❑タグ情報

ID3 タグ（Ver.1.x と 2.x）
META タグ
（タイトル、アーティストおよびアルバムに対応）

再生可能な MP3/WMA ファイル			
ファイル フォーマット	サンプリング 周波数	ビットレート	拡張子
MP3	32, 44.1, 48 kHz	32 ～ 320 kbps	.mp3
WMA	32, 44.1, 48 kHz	64 ～ 192 kbps	.wma

- ファイルには必ず拡張子“.MP3”“.WMA”を付けてください。これら以外の拡張子を付けた場合や拡張子を付けなかったファイルは再生できません。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

MP3 や WMA ファイルを再生する

1 **MP3 や WMA 形式の音楽ファイルを記録している CD-R/CD-RW をディスクトレイに入れる（☞36 ページ）。**

2 **FOLDER MODE でフォルダモードまたはディスクモードを選ぶ。**

フォルダモード ⟷ ディスクモード

【表示について】
- フォルダモードのとき
  “FLD”表示点灯
- ディスクモードのとき
  “FLD”表示消灯

フォルダモード 選択したフォルダ内のすべてのファイルを再生します。

ディスクモード 選択したフォルダおよびファイルの再生後、すべてのフォルダ内のファイルを再生します。

3 **△▽ を押して、再生したいフォルダを選ぶ。**

4 **I◄◄, ►►I または ◁ ▷ を押して、再生したいファイルを選ぶ。**

5 **►/II を押す。**

☞次のページへ

❑再生中にフォルダやファイルを変えるには

フォルダ

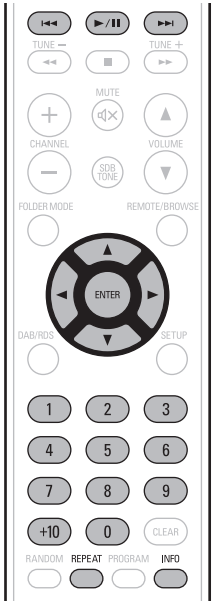
△▽ でフォルダを選び、**ENTER** を押す。

ファイル

◁ ▷ でファイルを選び、**ENTER** を押す。

または **I◀◀**, **▶▶I** でファイルを選ぶか、**0** ～ **9**, **+10** でファイル番号を選ぶ。

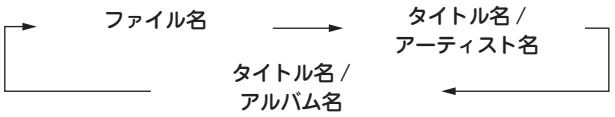
- 本機はディスク読み込み時にフォルダの番号とファイルの番号を自動的に設定します。



- 著作権保護されたファイルは再生できません。
- 書き込み用のアプリケーションソフトによっては、正しく書き込みができないものがあります。
- ディスクの記録状態によっては、正しく再生できないものがあります。

❑表示を切り替えるには

再生中に **INFO** を押す。



- 表示できる文字は次のとおりです。

A ～ Z	a ～ z	0 ～ 9

! " # $ % & : ; < > ? @ \ [ ] _ ` ¦ { } ~ ^ ' ( ) * + , - . / = (空白)

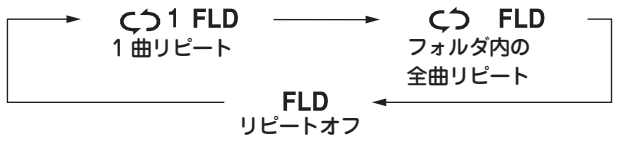
❑リピート再生するには

REPEAT を押す。

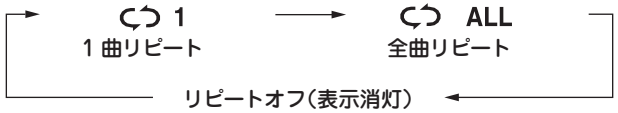
それぞれのくり返し再生を始めます。

- "フォルダモード" および "ディスクモード" では選択できるリピートモードが異なります。

"フォルダモード"のとき：



"ディスクモード"のとき：



[選択できる項目]

"フォルダモード"のとき：

1 FLD 選んだファイルのみをくり返し再生します。

FLD 選んだフォルダ内のすべてのファイルをくり返し再生します。

FLD フォルダモード再生に戻ります。

"ディスクモード"のとき：

「くり返し再生する（リピート再生）」(☞17 ページ)

❑Setting random playback

「順不同に再生する（ランダム再生）」(☞17 ページ)

MP3/WMA のディスクではプログラム再生はできません。

iPod の再生

iPod の音楽を聴くことができます。さらに、本機およびリモコンで iPod を操作することができます。

Made for iPod iPhone

“Made for iPod” and “Made for iPhone” mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod, or iPhone, respectively, and has been certified by the developer to meet
Apple performance standards.
Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards.
iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod shuffle および iPod touch は米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。

- iPod および iPhone は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

ご注意

- 万一、iPod および iPhone のデータが消失または損傷しても、弊社は一切責任を負いません。
- iPod および iPhone のソフトウェアのバージョンによっては、本機で操作できない場合があります。
- 本機に iPhone を接続するときは、iPhone を本機から 20cm 以上離してください。iPhone を本機に近付けていると、iPhone が電話を受信したときに、本機の音声出力にノイズが入ることがあります。

1 **再生の準備をする（☞22 ページ「USB または iPod を再生する前に」）。**

2 **REMOTE/BROWSE を押して、表示モードを選ぶ。**
押すたびに、モードが切り替わります。

【選択できるモード】		ブラウズモード	リモートモード
表示するディスプレイ		本機のディスプレイ	iPod のディスプレイ
再生できるファイル	音声ファイル	✓	✓
	映像ファイル		✓
操作できるボタン	本機と本機のリモコン	✓	✓
	iPod		✓

3 **△▽ でメニューを選び、ENTER で再生したい音楽ファイルを選ぶ。**

4 **►/II を押す。**
再生をはじめます。

❑リモコンのボタンと iPod のボタンの対応関係

リモコンのボタン	iPod のボタン	本機の動作
►/II	►II	再生 / 一時停止
I◄◄, ►►I	I◄◄, ►►I	オートサーチ（頭出し）
◄◄, ►► （長押し）	I◄◄, ►►I （長押し）	マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
△, ▽	クリックホイール	カーソル上下
ENTER または ▷	セレクト	設定の確定 / 再生
REMOTE/BROWSE	–	ブラウズモードとリモートモードの切り替え
REPEAT	–	リピート再生
RANDOM	–	ランダム再生
◁	MENU	メニューの呼び出し / メニューのリターン
■	–	停止

❑本機のディスプレイ表示を切り替えるには

再生中に **INFO** を押す。
ボタンを押すたびに、切り替わります。

タイトル名 / アーティスト名 ⟷ タイトル名 / アルバム名

iPod を取り外す

1 **POWER ⏻ を押して、本機の電源をスタンバイ状態にする。**

2 **USB ポートから iPod ケーブルを抜く。**

iPod を接続している本機の電源がオンのときに **POWER ⏻** を押すと、iPod チャージスタンバイモードになり、iPod の充電を続けます。このとき電源表示は赤色に点灯します。充電が完了すると、電源表示は消灯します。

USB メモリーの再生

再生できる USB メモリーのフォーマットについて

本機は USB メモリーに保存している次のフォーマットで作成されたファイルを再生できます。

❑USB 対応ファイルシステム

"FAT16"または"FAT32"

- USB メモリーが複数のパーティションに分かれている場合は、先頭ドライブのみ選択できます。

❑再生可能な最大ファイル数とフォルダ数

1 つのフォルダの中の最大ファイル数：255 個
最大フォルダ数：255 個

❑ファイル形式

MPEG-1 Audio Layer-3
WMA (Windows Media Audio)

❑タグ情報

ID3 タグ(Ver.1.x と 2.x)
META タグ
（タイトル、アーティストおよびアルバムに対応）

再生可能な MP3/WMA ファイル			
ファイルフォーマット	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
MP3	32, 44.1, 48 kHz	32 ～ 320 kbps	.mp3
WMA	32, 44.1, 48 kHz	64 ～ 192 kbps	.wma

本機は、著作権保護のかかっていない音楽ファイルのみを再生することができます。

- インターネット上の有料音楽サイトからのダウンロードコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

USB メモリーを再生する

1 **再生の準備をする**
(☞22 ページ「USB または iPod を再生する前に」)。

2 **FOLDER MODE を押して、"フォルダモード"または"メモリーモード"を選ぶ。**

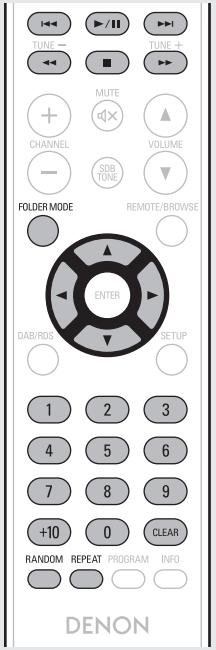
- フォルダモードのとき
  "FLD"表示点灯
- メモリーモードのとき
  "FLD"表示消灯

フォルダモード

選択したフォルダ内のすべてのファイルを再生します。

メモリーモード

選択したフォルダおよびファイルの再生後、すべてのフォルダ内のファイルを再生します。



3 **△▽ を押して、再生したいフォルダを選ぶ。**

4 **I◀◀, ▶▶I または ◁ ▷ を押して、再生したいファイルを選ぶ。**

5 **►/II を押す。**

USB メモリーに記録しているファイルの再生順については、(☞22 ページ)をご覧ください。

❑再生中にフォルダやファイルを変えるには

フォルダ
△▽ でフォルダを選び、**ENTER** を押す。
ファイル
◁ ▷ でファイルを選び、**ENTER** を押す。
または **I◀◀**, **▶▶I** でファイルを選ぶか、**0** ～ **9**, **+10** でファイル番号を選ぶ。

- 本機は USB メモリー読み込み時にフォルダの番号とファイルの番号を自動的に設定します。

❑再生を停止するには

■ を押す。

❑再生を一時停止するには

►/II を押す。
II 表示が点灯します。

- 再生を再開するときは、もう一度 **►/II** を押してください。

❑早送り / 早戻し(サーチ)をするには

再生中に **◀◀**, **▶▶** を押し続ける。

❑リピート再生するには

REPEAT を押す。

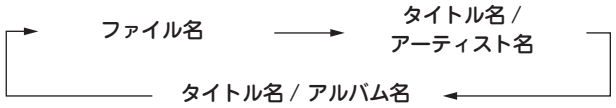
❑ランダム再生するには

停止中に **RANDOM** を押す。

☞次のページへ

❑表示を切り替えるには

再生中に **INFO** を押す。



- 表示できる文字は次のとおりです。

A ～ Z	a ～ z	0 ～ 9

! " # $ % & : ; < > ? @ \ [ ] _ ` ¦ { } ~ ^ ' ( ) * + , - . / = (空白)

ご注意

- USB メモリーを本機と接続して使用しているときに、万一 USB メモリーのデータが消失または損傷した場合、当社は一切責任を負いません。
- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものをお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。

アラーム設定

本機では、アラーム再生(エブリディアラーム、ワンスアラーム)、スリープタイマー再生をおこなえます。

❑各アラームの設定時刻が重複している場合のアラーム動作について

スリープタイマーを設定している場合

- スリープタイマーで設定している終了時刻で終了します。

ワンスアラームとエブリディアラームを重複して設定している場合(スリープタイマーを設定していない場合)

- 開始時刻を早く設定しているアラームの開始時刻で開始します。
- 終了時刻を早く設定しているアラームの終了時刻で終了します。

現在時刻が未設定のときにアラーム設定モードに入ると、時刻設定モードになります。

アラームを設定する

- **エブリディアラーム (“EVERYDAY ALARM”)**
  毎日設定した時刻に、再生と終了(電源スタンバイ)をおこないます。
- **ワンスアラーム (“ONCE ALARM”)**
  1 回のみ、設定した時刻に再生と終了(電源スタンバイ)をおこないます。

1 **SETUP を押す。**

2 **△▽ で“ALARM SETUP”を選び、ENTER または ▷ を押す。**

3 **△▽ でアラームモードを選び、ENTER または ▷ を押す。**

ONCE ALARM ⇄ EVERYDAY ALARM

4 **△▽ でソース選び、ENTER または ▷ を押す。**

DISC ⇄ iPod/USB ⇄ TUNER ⇄ DIGITAL IN ⇄ ANALOG IN

5 **手順 4 で“TUNER”を選んだときのみ**

△▽ でプリセット番号を選び、ENTER または ▷ を押す。

- 選択したプリセット番号に名前を登録していない場合は、プリセット番号を表示したあとに周波数を表示します。

☞次のページへ

6 △▽ でアラーム開始時刻の“時”を設定し、**ENTER** または ▷ を押す。

7 △▽ でアラーム開始時刻の“分”を設定し、**ENTER** または ▷ を押す。

8 △▽ でアラーム終了時刻の“時”を設定し、**ENTER** または ▷ を押す。

9 △▽ でアラーム終了時刻の“分”を設定し、**ENTER** または ▷ を押す。

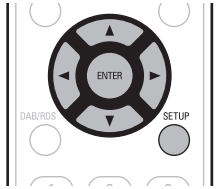
10 ◁ ▷ でアラームの“ON” または“OFF” を選び、**ENTER** を押す。

- 表示が点灯し、アラーム設定が確定します。

- 3 秒間、アラーム設定の内容を表示します。

11 **POWER ⏻ を押して、電源をスタンバイにする。**
アラームスタンバイモードになり、電源表示がオレンジ色に点灯します。

❑アラームのオン / オフを設定するには



① **SETUP**を押す。
② △▽ で“ALARM ON/OFF”を選び、**ENTER**を押す。
③ △▽で“ONCE”または“EVERYDAY”を選ぶ。
④ ◁ ▷で“ON”または“OFF”を選らび、**ENTER**を押す。
アラーム設定の内容を表示します。

- “OFF” にすると、アラーム動作が無効になりますが、アラームの設定内容はそのまま残ります。

❑アラーム設定の内容を確認するには

① **SETUP**を押す。
② △▽で“ALARM ON/OFF”を選び、**ENTER**を押す。
③ アラーム設定の“ON”を表示したら、**ENTER**を押す。
3 秒間、アラーム設定の内容を表示します。

❑アラーム設定の内容を変更するには

「アラームを設定する」(☞27 ページ) の操作を行ってください。

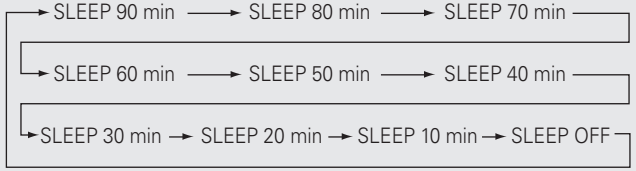
❑アラーム設定中に設定を変更するには

◁ を押す。
ひとつ前の設定に戻ります。変更したい設定を表示させてから、設定をおこなてってください。

スリープタイマーを設定する

設定した時間後に、自動的に電源をスタンバイ状態にします。10 分間隔で最大 90 分まで設定できます。

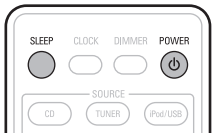
再生中に SLEEP を押して、設定時間を選ぶ。



- 約 5 秒後、設定を確定しもとの表示に戻ります。

❑スリープタイマーを解除するには

SLEEP を押して“SLEEP OFF” を選ぶか、**POWER ⏻** を押す。



❑スリープタイマーが動作するまでの時間を確認するには

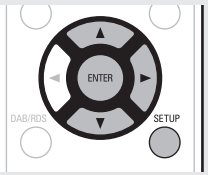
SLEEP を押す。

最適化フィルターを使用する

スピーカーシステム SC-M39（別売）の特性に合わせた最適化フィルター機能を動作させます。

1 **SETUP を押す。**

2 **△▽ で“SPK OPTIMISE” を選び、ENTER または ▷ を押す。**



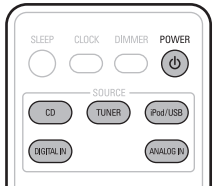
3 **△▽ で“ON”を選び、ENTER または ▷ を押す。**
設定が確定します。

ON スピーカーシステム SC-M39（別売）に最適な特性になります。

OFF フラットな特性になります。

オートパワーオン

電源がスタンバイのとき、**POWER** ⏻ 以外の次のボタンで電源がオンになり、次の動作をおこないます。



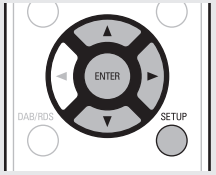
- **⏏**（本体）..... ディスクトレイが開きます。
- **►/II**..... “CD”、“iPod”または“USB”の再生をはじめます。
- **CD**..... ソースが“DISC”に切り替わります。
- **TUNER**..... ソースが“TUNER”に切り替わり、放送を受信します。
- **iPod/USB** ..... ソースが“iPod/USB”に切り替わります。
- **DIGITAL IN**..... ソースが“DIGITAL IN”に切り替わります。
- **ANALOG IN**..... ソースが“ANALOG IN”に切り替わります。

オートスタンバイ

オートスタンバイをオンにして、30 分間操作しない状態が続くと、本機は自動的にスタンバイモードになります。
入力ソースが“ANALOG IN”の場合のみ、本機を 8 時間操作しない状態が続くと、本機は自動的にスタンバイ状態になります。

1 **SETUP を押す。**

2 **△▽ で“AUTO STANDBY” を選び、ENTER または ▷ を押す。**



3 **△▽ で“ON”を選び、ENTER または ▷ を押す。**
設定が確定します。

ご注意

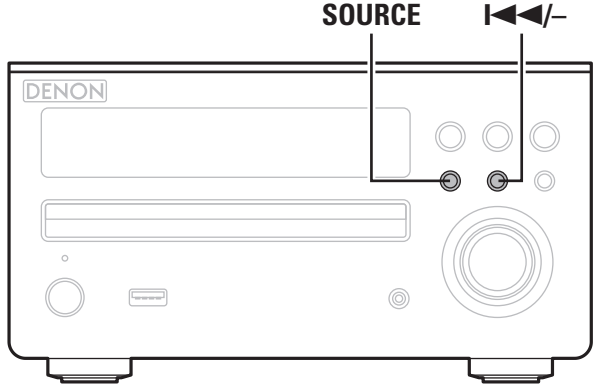
次のときはオートスタンバイ機能ははたらきません。
- USB 端子に iPod（リモートモード）を接続しているとき
- ソースが“TUNER”のとき
- お買い上げ時のオートスタンバイ機能の設定はオフです。

ラストソースメモリー

スタンバイにする直前の各種の設定を記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定になります。

マイコンの初期化

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種の設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。



1 **電源コードを抜く。**

2 **I◄◄/– と SOURCE を同時に押しながら、コンセントに電源プラグを差し込む。**
“INITIALIZE”を点滅表示します。

手順 2 で“INITIALIZE” が点滅しない場合は、もう一度手順 1 からやり直してください。

Informations

情報編

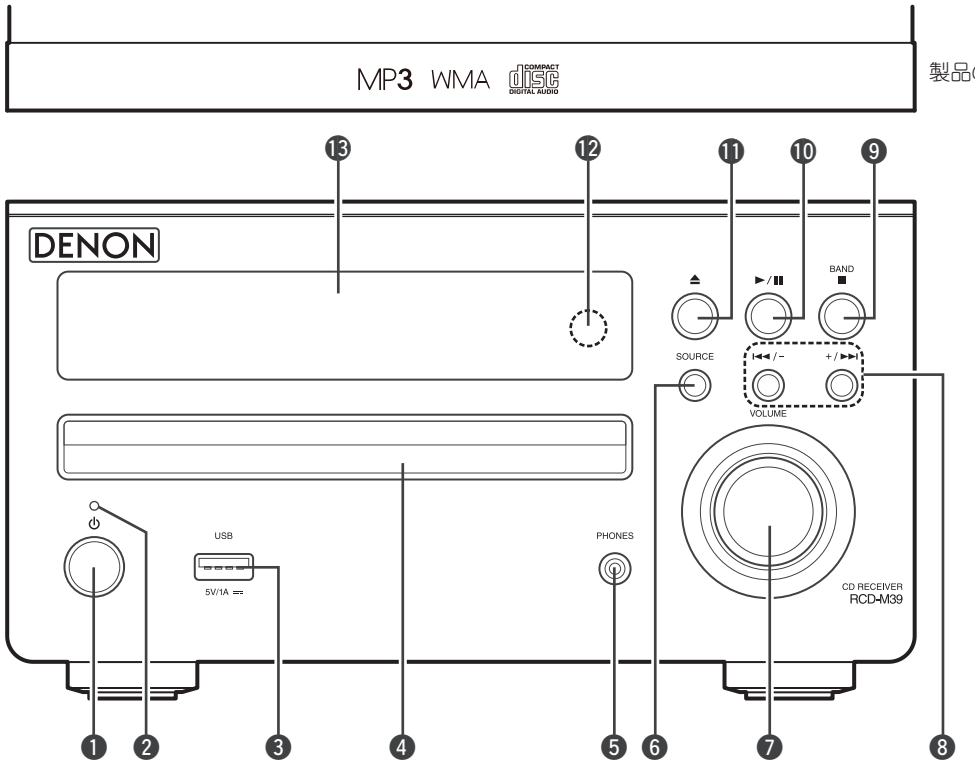
ここでは本機に関するさまざまな情報を記載しています。
必要に応じてご覧ください。

- **各部の名前** ☞31 ページ
- **その他の情報** ☞36 ページ
- **故障かな？と思ったら** ☞37 ページ
- **保証と修理について** ☞39 ページ
- **主な仕様** ☞39 ページ
- **索引** ☞40 ページ

各部の名前

フロントパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページを参照してください。



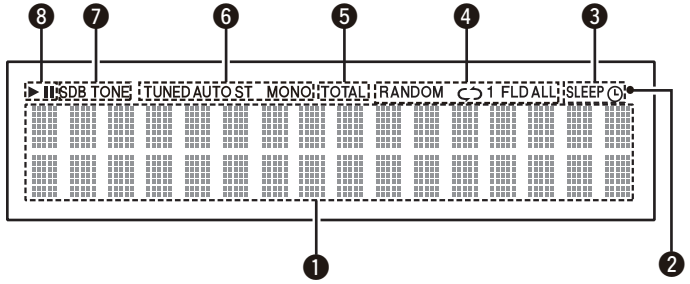
❶ **電源操作ボタン (⏻)**……(14, 22)
❷ **電源表示**……(14)
❸ **USB端子**……(9)
❹ **ディスクトレイ**……(36)
❺ **ヘッドホン端子 (PHONES)**
ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカー端子から音が出なくなります。

ご注意

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

❻ **ソースボタン(SOURCE)**……(16, 29)
❼ **主音量調節つまみ(VOLUME)**……(16)
❽ **スキップ/選局ボタン (I◄◄/-, +/►►I)**……(17, 20, 23, 26, 29)
❾ **受信バンド/ストップボタン (BAND/■)**……(17, 19, 26)
❿ **プレイ/ポーズボタン (►/II)**……(14, 17, 23, 25, 26)
⓫ **ディスクトレイ開閉ボタン (⏏)**……(14)
⓬ **リモコン受光部**……(35)
⓭ **ディスプレイ**

ディスプレイ



❶ **インフォメーションディスプレイ**
いろいろな情報を表示します。

❷ **リモコン信号受信表示**

❸ **スリープタイマー動作表示**

❹ **再生モード表示**……(17, 24, 26)

❺ **トータル表示(TOTAL)**
CD の総曲数や総時間を表示中に点灯します。

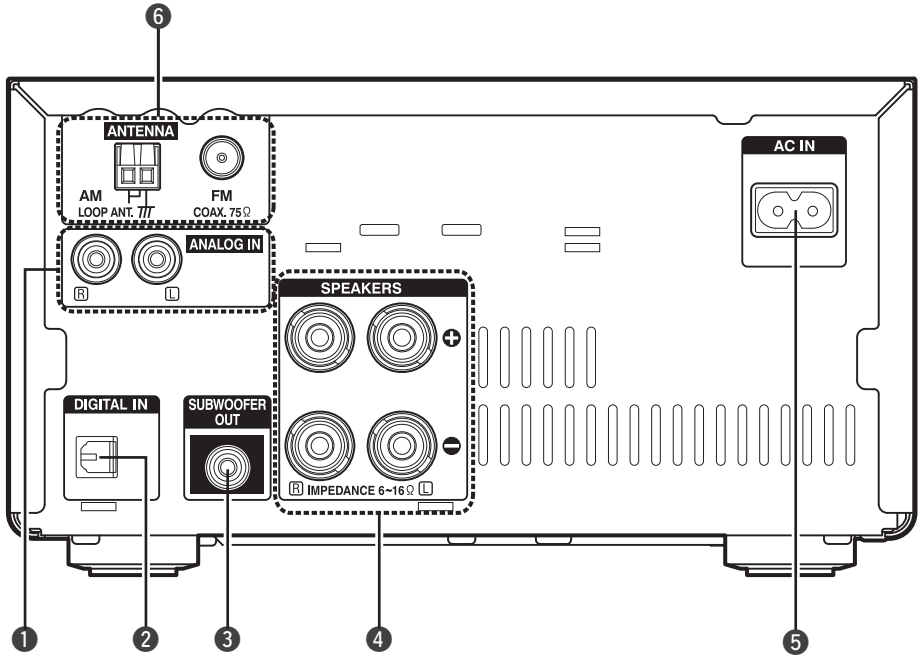
❻ **チューナー受信モード表示**……(19)

❼ **トーン表示**……(16)
SDB: スーパーダイナミックバス(SDB)機能が"ON"のときに点灯します。
TONE: 音質(低音 / 高音)を調節しているときに点灯します。

❽ **再生モード表示**
►: 再生中に点灯します。
❚❚: 一時停止中に点灯します。

リアパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページを参照してください。



❶ **アナログ音声入力端子 (ANALOG IN)**……(10)

❷ **デジタル音声入力端子 (DIGITAL IN)**……(10)

❸ **サブウーハー端子 (SUBWOOFER OUT)**……(8)

❹ **スピーカー端子 (SPEAKERS)**……(8)

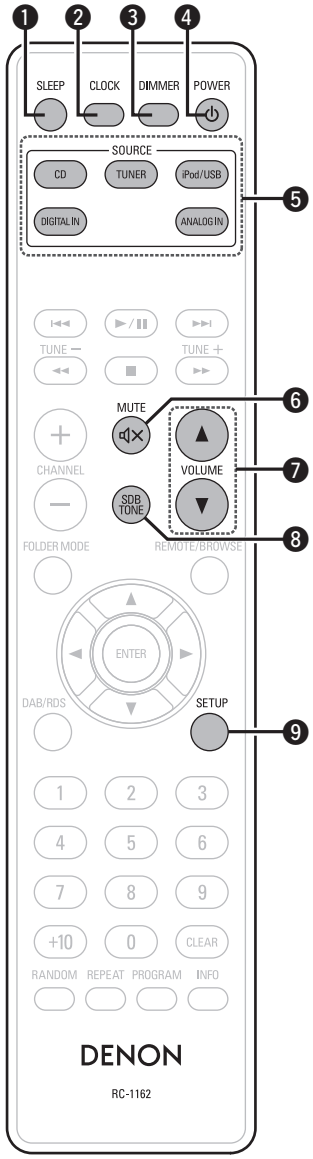
❺ **ACインレット (AC IN)**……(12)

❻ **FM/AMアンテナ端子 (ANTENNA)**……(11)

リモコン

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページを参照してください。

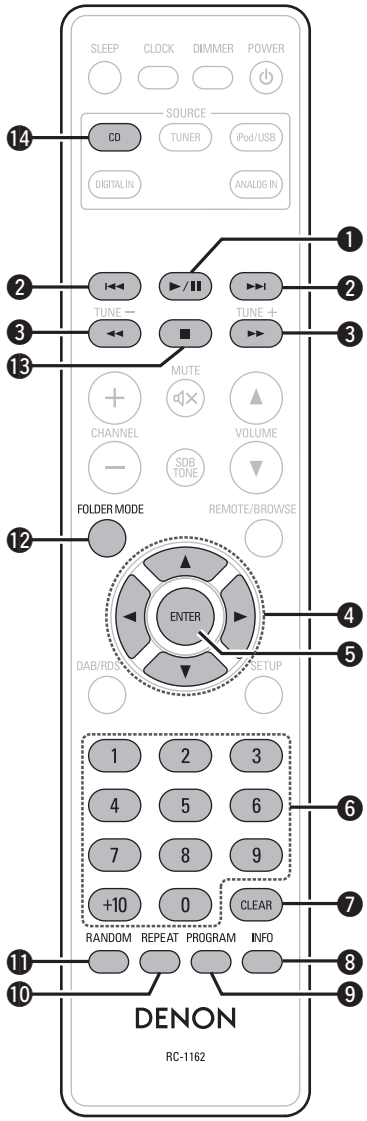
すべてのソース (CD、TUNER、iPod および USB) のときに操作できるボタン



❶ スリープタイマーボタン (SLEEP) ……(28)
❷ クロックボタン(CLOCK)……(15)
❸ ディマーボタン(DIMMER)……(16)
❹ 電源ボタン (⏻) ……(14, 22)
❺ ソースボタン(SOURCE)……(16, 29)
❻ 消音ボタン (MUTE 🔇)……(16)
❼ 主音量調節ボタン (VOLUME ▲▼) ……(16)
❽ スーパーダイナミックスバストーンコントロールボタン(SDB TONE)……(16)
❾ セットアップボタン (SETUP) ……(15, 19, 20, 27, 29)

ソースが“CD”のときに操作できるボタン

「すべてのソースのときに操作できるボタン」も使用できます。

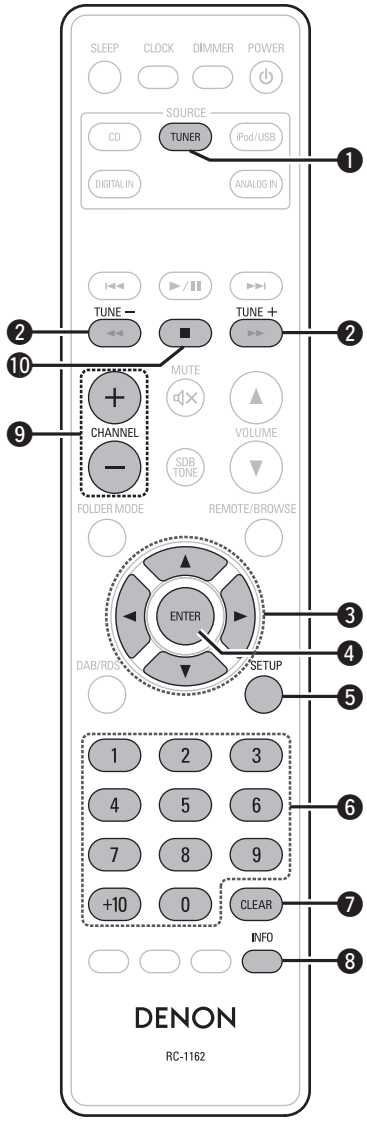


❶ プレイ/ポーズボタン (▶/❚❚) ……(14, 17)
❷ スキップボタン (I◀◀, ▶▶I)……(17, 23)
❸ 早送り/早戻しボタン (◀◀, ▶▶) ……(17)
❹ カーソルボタン (△▽◁ ▷)……(23)
❺ エンターボタン(ENTER) ……(24)
❻ 番号ボタン (0 – 9, +10)……(17, 24)
❼ クリアボタン(CLEAR)……(18)
❽ インフォメーションボタン (INFO)……(18, 24)
❾ プログラムボタン(PROGRAM)……(18)
❿ リピートボタン(REPEAT)……(17, 24)
⓫ ランダムボタン(RANDOM) ……(17)
⓬ フォルダモードボタン (FOLDER MODE)……(23)
⓭ ストップボタン (■)……(17)
⓮ ソースボタン (CD)……(14)

☞次のページへ

ソースが“TUNER”のときに操作できるボタン

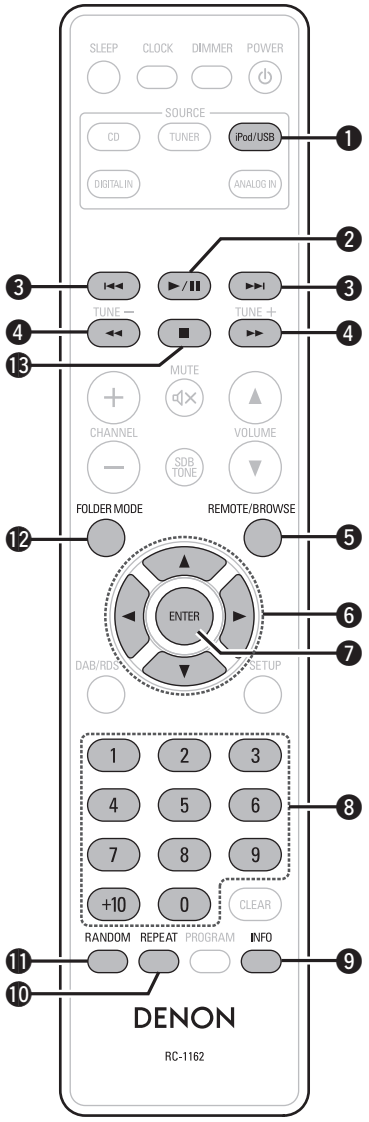
「すべてのソースのときに操作できるボタン」も使用できます。



❶ ソースボタン (TUNER)……(19)
❷ 選局ボタン (TUNE +, –)……(19)
❸ カーソルボタン (△▽◁ ▷)……(19)
❹ エンターボタン(ENTER) ……(19)
❺ セットアップボタン (SETUP)……(19)
❻ 番号ボタン (0 – 9, +10)……(19)
❼ クリアボタン(CLEAR) ……(19)
❽ インフォメーションボタン(INFO)……(18)
❾ チャンネル選択ボタン (+, –)……(20)
❿ ストップボタン (■)……(19)

ソースが“iPod”、“USB”のときに操作できるボタン

「すべてのソースのときに操作できるボタン」も使用できます。



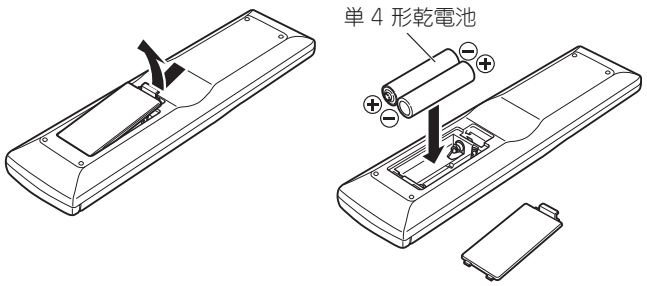
❶ ソースボタン (iPod/USB)……(16)
❷ プレイ/ポーズボタン (►/❚❚) ……(25, 26)
❸ スキップボタン (I◄◄, ►►I) ……(25, 26)
❹ 早送り/早戻しボタン (◄◄, ►►)……(25, 26)
❺ リモートモード/ブラウズモード切り替えボタン(REMOTE/BROWSE)……(25)
❻ カーソルボタン(△▽◁ ▷)……(25, 26)
❼ エンターボタン(ENTER) ……(25, 26)
❽ 番号ボタン (0 – 9, +10)……(24)
❾ インフォメーションボタン (INFO)……(25)
❿ リピートボタン(REPEAT)……(25, 26)
⓫ ランダムボタン (RANDOM) ……(25, 26)
⓬ フォルダモードボタン (FOLDER MODE)……(26)
⓭ ストップボタン (■)……(26)

☞次のページへ

乾電池の入れかた

① 裏ぶたを矢印の方向へ押し上げて取り外す。

② 乾電池(2 本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。

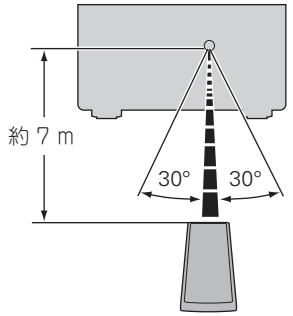


③ 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- リモコンには単 4 形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。(付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。)
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示どおりに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
  - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例に従って処理をしてください。
- 充電式電池をお使いの場合、正しく動作しない場合があります。

リモコンの使いかた



ご注意

- リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線があたると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。
- 3D 映像機器を構成している各ユニット(モニター、3D 視聴用メガネ、3D 信号伝送ユニットなど)間の信号の伝送を無線通信(赤外線通信など)でおこなっている 3D 映像機器をお使いの場合、その無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。そのときは 3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。

ディスクについて

本機で使用できるディスク

❶音楽用CD

本機で使用できる CD は、右のマークが付いているものです。

❷CD-R/CD-RW

ご注意

- ハート型や八角形など特殊形状の CD は再生できません。故障の原因になりますので、使用しないでください。
- ご使用になるディスクや記録状態により、再生できない場合があります。
- ファイナライズしていないディスクは再生できません。

ファイナライズとは？

録音された CD-R/CD-RW を再生対応機で再生できるように処理することです。

ディスクの持ち方

ディスク情報面に触らないようにしてください。

ディスクを入れる際のご注意

- ディスクは 1 枚だけ入れてください。2 枚以上重ねて入れると故障の原因になり、ディスクを傷つけることにもなります。
- ひび割れや変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。
- セロハンテープやレンタル CD のラベルなどのノリがはみ出したり、はがした跡にノリが残っているディスクは使用しないでください。そのまま使用すると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因になることがあります。

ディスクの入れかた

- レーベル面を上にして入れてください。
- ディスクトレイが完全に開いた状態でディスクを入れてください。
- 12cm ディスクは外周トレイガイド（図 1）に合わせ、8cm ディスクは内周トレイガイド（図 2）に合わせて、水平に置いてください。

図 1

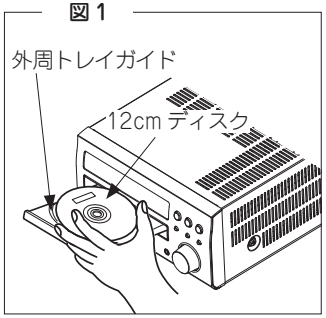
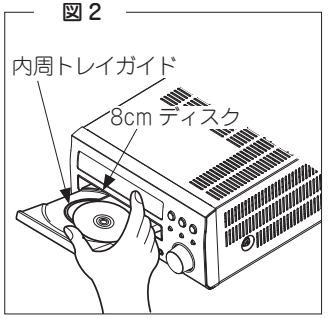


図 2



- 8cm ディスクは、アダプターを使用せずに内周トレイガイドに合わせて置いてください。

- 再生できないディスクを入れた場合には、“00 Tr 00 : 00” を表示します。
- ディスクを裏返しに入れた場合またはディスクが入っていない場合には、“NO DISC” を表示します。

ご注意

- 電源を切っているときに、ディスクトレイを手で押し込まないでください。故障の原因になります。
- ディスクトレイに異物を入れないでください。故障の原因になります。

取り扱いについてのご注意

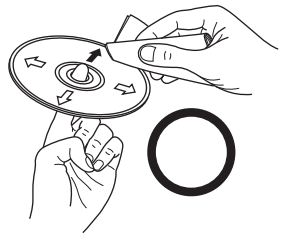
- 指紋・油・ゴミなどを付けないでください。
- ディスクに傷を付けないよう、特にケースからの出し入れにはご注意ください。
- 曲げたり、熱を加えたりしないでください。
- 中心の穴を大きくしないでください。
- レーベル面（印刷面）にボールペンや鉛筆などで文字を書いたり、ラベルなどを貼り付けたりしないでください。
- 屋外など寒いところから急に暖かいところへ移すと、ディスクに水滴が付くことがありますが、ヘアードライヤーなどで乾かさないでください。

保存についてのご注意

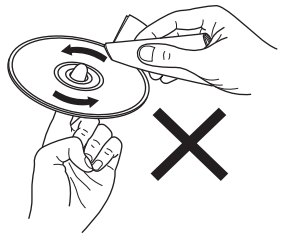
- ご使用後は、必ずディスクを取り出してください。
- ほこり・傷・変形などを避けるため、必ずケースに入れてください。
- 次のような場所に置かないでください。
  1. 直射日光が長時間当たるところ
  2. 湿気・ほこりなどが多いところ
  3. 暖房器具などの熱が当たるところ

ディスクのお手入れのしかた

- ディスクに指紋や汚れが付いたときは、汚れを拭き取ってから使用してください。音質が低下したり、音が途切れたりすることがあります。
- 拭き取りには、市販のディスククリーニングセットまたはやわらかい布などを使用してください。



内周から外周方向へ軽く拭く。



円周に沿っては拭かない。

ご注意

レコードスプレー・帯電防止剤や、ベンジン・シンナーなどの揮発性の薬品は使用しないでください。

用語の解説

M

MP3 (MPEG Audio Layer-3)
音声データ圧縮方式のひとつで、国際的な標準規格です。
映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。
音楽 CD レベルの音質を保ったまま、約 1/11 のデータ容量に圧縮しています。

MPEG (Moving Picture Experts Group)、MPEG-2、MPEG-4
デジタル圧縮形式として映像や音声を符号化するために使用される規格群の名前です。動画の規格には、「MPEG-1 Video」、「MPEG-2 Video」、「MPEG-4 Visual」、「MPEG-4 AVC」などがあります。音声の規格には、「MPEG-1 Audio」、「MPEG-2 Audio」、「MPEG-4 AAC」などがあります。

W

WMA (Windows Media Audio)
米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。
WMA データは、Windows Media® Player Ver.7、7.1、Windows Media®Player for Windows® XP、または Windows Media® Player 9 Series を使用してエンコード(符号化)することができます。
WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。
もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正常に動作しないことがあります。

かな

サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波(アナログ信号)を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化(デジタル信号化)することです。
1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

スピーカーインピーダンス
交流抵抗値のことで、Ω(オーム)という単位であらわします。
この値が小さいほど大きな出力が得られますが、アンプにかかる負担は増えます。本機が対応しているインピーダンスのスピーカーをお使いください。

ダイナミックレンジ
機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ビットレート(Bit rate)
ディスクに記録された映像 / 音声データを 1 秒あたりに何ビットのデータを処理したかをあらわします。

ファイナライズ
録音された CD-R/CD-RW を再生対応機で再生できるように処理することです。

保護回路
何らかの原因で過負荷や過電圧などの異常が起きたときに、本機の電源をスタンバイ状態にする機能です。過負荷や過電圧から本機内部の回路の破損を防ぎます。

故障かな？と思ったら

❑ 各接続は正しいですか

❑ 取扱説明書に従って正しく操作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【共通】

症状	原因	対策	関連ページ
本機が正常に動作しない。	• 外部からのノイズや妨害によって本機が誤動作している。	• マイコンを初期化してください。	29
電源を入れてもディスプレイが点灯せず、音が出ない。	• 電源コードの差し込みが不完全である。	• 本機のリアパネルおよびコンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	12
ディスプレイは点灯するが、音が出ない。	• ソースと合っていない。	• 適切なソースに切り替えてください。	16
	• 主音量が小さすぎる。	• 主音量を適切な大きさに調節してください。	16
	• 消音(ミューティング)モードになっている。	• 消音(ミューティング)モードを解除してください。	16
表示が暗い。	• ディマー機能がはたらいている。	• DIMMER ボタンでディマー機能を解除してください。	16
突然電源が切れ、電源表示が赤色で点滅している。(0.5 秒間隔で点滅)	• 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいている。	• 一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。	37
		• 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	5
	• スピーカーケーブルの芯線どうしの接触や、芯線が端子から外れて本機のリアパネルに接触したために、保護回路がはたらいている。	• 電源コードを抜き、芯線をしっかりとより直してから接続し直してください。	8
突然電源が切れ、電源表示が赤色で点滅している。(0.25 秒間隔で点滅)	• 本機が故障している。	• 電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	-

次のページへ

【 リモコン 】

症状	原因	対策	関連ページ
リモコンを操作しても、正常に動作しない。	• 乾電池が消耗している。	• 新しい乾電池と交換してください。	35
	• 本体から離れすぎているか、角度が良くない。	• リモコンは、本機から約 7 メートルおよび 30° 以内の範囲内で操作してください。	35
	• 本機とリモコンの間に障害物がある。	• 障害物を取り除いてください。	–
	• 乾電池の ⊕ と ⊖ が正しくセットされていない。	• 正しい極性でセットしてください。	35
	• 本機のリモコン受光部に強い光（直射日光、インバーター式蛍光灯の光など）が当たっている。	• 受光部に強い光が当たらない場所に設置してください。	35

【CD】

症状	原因	対策	関連ページ
CD を入れてもディスプレイが “00 Tr 00 : 00” 表示になる。	• CD が正しく入っていない。	• CD を入れ直してください。	36
►/II ボタンを押しても再生しない。	• CD が汚れたり、傷が付いたりしている。	• CD の汚れを拭き取るか、他の CD と入れ替えてください。	36
ディスクの特定の場所が正しく再生できない。	• CD が汚れたり、傷が付いたりしている。	• CD の汚れを拭き取るか、他の CD と入れ替えてください。	36
CD-R/CD-RW が再生できない。	• ファイナライズをしていない。	• ファイナライズをしてから再生してください。	36
	• 記録状態が悪い。またはディスク自体の品質が悪い。	• 正しく記録しているディスクをご使用ください。	–
MP3、WMA のファイルが再生できない。	• ファイルフォーマット、または拡張子、またはディスク作成時の設定が本機に対応していない。	• 本機に対応したファイルフォーマット、拡張子、ディスク作成時の設定でディスクを作成してください。	23

【 チューナー 】

症状	原因	対策	関連ページ
FM 放送に “ザー” という雑音が入る。	• アンテナケーブルを正しく接続していない。	• アンテナケーブルを正しく接続してください。	11
		• 屋外アンテナに接続してください。	–
AM 放送に “シー” や “ザー” という雑音が入る。	• テレビなどから雑音が入っている。または、放送局の干渉音が聞こえる。	• テレビを消してください。	–
		• AM 用ループアンテナの位置や向きを変えてください。	11

【USB】

症状	原因	対策	関連ページ
USB メモリー接続時、ディスプレイに “USB” を表示しない。	• 接続不良などで、本機が USB メモリーを認識できない。	• 接続を確認してください。	9
	• マスストレージクラスまたは MTP 以外の USB メモリーを接続している。	• 本機は、マスストレージクラスまたは MTP 対応の USB メモリーに対応しています。それ以外の USB メモリーは認識できません。	–
	• 本機が認識できないデバイスを接続している。	• 故障ではありません。すべての USB メモリーに対して、動作や電源の供給を保証するものではありません。	–
	• USB ハブ経由で接続している。	• USB ハブを経由した接続はできません。また、ハブ機能を内蔵した USB メモリーも再生できません。	–
iPod が再生できない。	• ソースが “iPod/USB” 以外になっている。	• ソースを “iPod/USB” に切り替えてください。	25
	• ケーブルを正しく接続していない。	• 接続をやり直してください。	9
USB メモリー内のファイルが再生できない。	• USB メモリーのフォーマットが、FAT16 または FAT32 以外のフォーマットになっている。	• フォーマットを FAT16 または FAT32 に設定してください。詳しくは、USB メモリーの取扱説明書をご覧ください。	–
	• 複数のパーティションに分かれている。	• 複数のパーティションに別れている場合は、第 1 パーティション以外は再生できません。	–
	• ファイルが対応しているフォーマット以外で記録している。	• 対応しているフォーマットで記録してください。	26
	• 著作権保護のかかったファイルを再生しようとしている。	• 本機では著作権保護のかかったファイルを再生することができません。	26

保証と修理について

❑保証書について

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

❑修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

❑依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名 …… 取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号 … 保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

❑補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

❑お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

❑ オーディオ部

- パワーアンプ部

実用最大出力： 30 W + 30 W（負荷 6 Ω、1 kHz、THD 10 % JEITA）

❑ チューナー部

受信周波数範囲：	FM：76 MHz～90 MHz	AM：522 kHz～1629 kHz
受信感度：	FM：1.2 μV/75 Ω	AM：20 μV
FM ステレオ分離度：	35 dB（1 kHz）	

❑ CD 部

再生周波数特性： 2 Hz～20 kHz
ワウ・フラッター： 測定限界（± 0.001％　W.peak）以下
サンプリング周波数： 44.1 kHz

❑ 時計 / アラーム部

時計方式： クリスタル発振子（月差 1～2 分）
アラーム / タイマー： エブリディアラーム / ワンスアラーム：各 1 系統
スリープタイマー：最大 90 分

❑ 総合

電源： AC100 V　50/60 Hz
消費電力： 70 W（電気用品安全法による）
スタンバイ時の消費電力： 約 0.3W

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

索引

索引

☞ A
AM 室内アンテナ……11

☞ B
BASS……16

☞ F
FM 室内アンテナ……11

☞ M
MP3……22、23、37

☞ S
SDB……16

☞ T
TREBLE……16

☞ W
WMA……22、23、37

☞ あ
アラーム設定……27

☞ お
音質を調節する……16
音量を調節する……16

☞ け
ケーブル
オーディオケーブル……8
サブウーハーケーブル……8
スピーカーケーブル……8
光伝送ケーブル……8
現在時刻の合わせかた……15

☞ さ
再生
CD を再生する……17
iPod の再生……25
MP3 や WMA ファイルを再生する……23
USB メモリーの再生……26
音声入力端子に接続した
オーディオ機器の再生……21
チューナーを聴く……19
サブウーハー……8
サンプリング周波数……23、26、37

☞ す
スピーカーインピーダンス……37
スピーカーケーブルを接続する……8

☞ せ
接続
FM/AM アンテナを接続する……11
iPod または USB メモリーを接続する……9
スピーカーの接続……8
テレビを接続する……10
電源コードを接続する……12

☞ た
ダイナミックレンジ……37

☞ て
ディスプレイ……16、32
電源を入れる……14

☞ に
入力ソース……16
入力できる文字……19、20、24、27

☞ ひ
ビットレート……23、26、37
表示できる文字……24、27

☞ ふ
ファイナライズ……37
付属品……5
ブラウズモード……25
フロントパネル……31

☞ へ
ヘッドホン端子……31

☞ ほ
保護回路……37

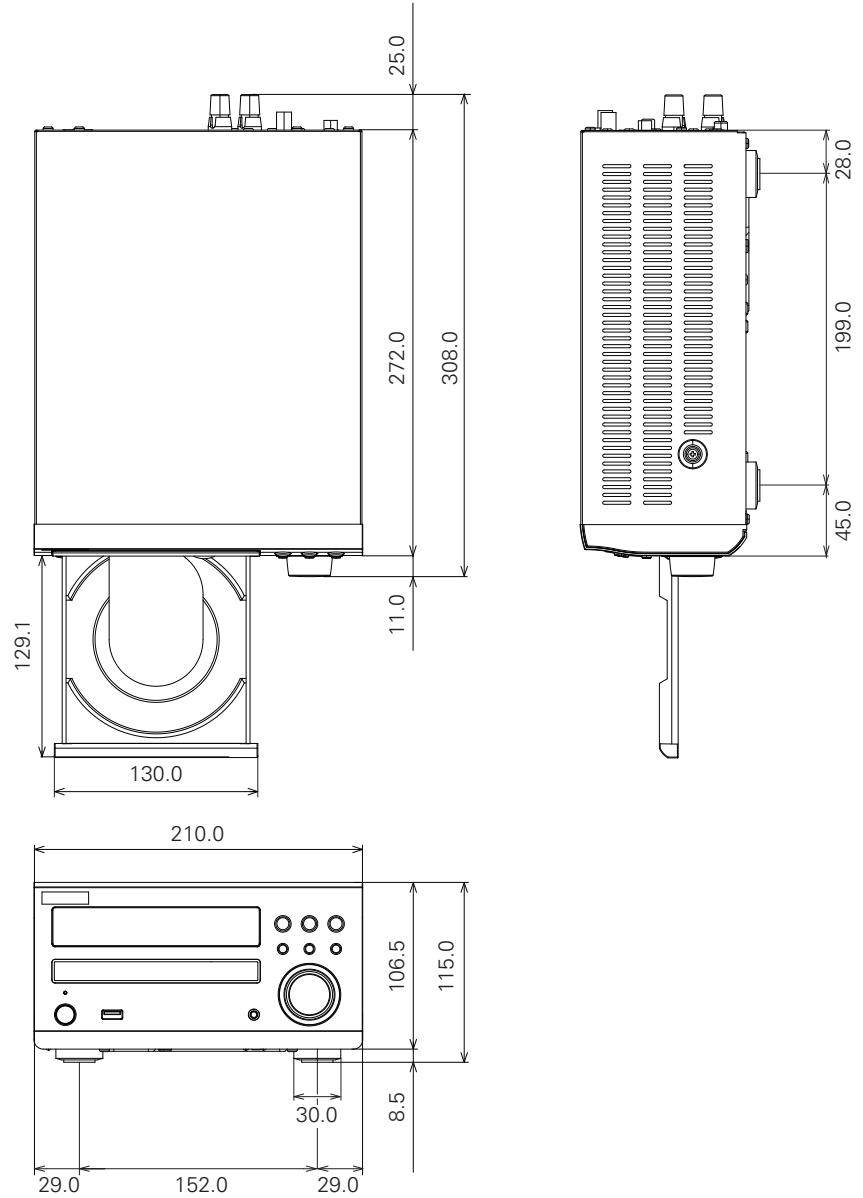
☞ ま
マイコンの初期化……29

☞ み
ミューティング……16

☞ り
リアパネル……32
リモートモード……25
リモコン……33
乾電池の入れかた……35

寸法

単位：mm



質量：4.0 kg

DENON

デノンお客様相談センター

☎ 044-670-5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間　9：30 ～ 12：00、12：45 ～ 17：30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

〒 210-8569　神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1　D&M ビル

故障･修理･サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。

http://denon.jp/jp/support/pages/servicecenter.aspx

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

V00

Printed in China　5411 10874 00AD